

健康ひとくちメモ

甲状腺の病気と 放射性ヨード131

(その一)

福島県では18歳以下の子どもに、甲状腺の検査をすることになりました。これはチェルノブイリ原発事故以後、子ども達に甲状腺がんが増加したことによります。

チェルノブイリの子どもたちは、事故以後も高濃度の放射性ヨード131を含む牛乳を摂取し、甲状腺にそれが蓄積し甲状腺がんを引き起こしたと考えられています。

このように甲状腺はヨードを取り込み、甲状腺ホルモンを作り出します。このことを利用して微量の放射性ヨード131を甲状腺に取り込ませて甲状腺の画像検査や機能検査が行われます。これらの検査をする前にはヨードの摂取制限が行われます。昆布、昆布だし、わかめ、のり、青のりなどの海藻類の制限です。私は焼きそばに振りかけた青のりで、甲状腺検査を失敗した苦い経験があります。しかし逆にいえば、たかだか、そのくらい青のりで、放射性ヨードが甲状腺に入るのをブロックする位だから、毎日とる少しの海藻類で

放射性ヨードの取り込みを阻止できるのではないかと考えられます。

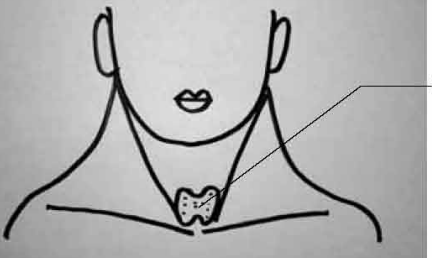
幸い日本では、チェルノブイリとはだいぶ状況が異なります。日本では海産物等からのヨード摂取が多く、放射性ヨードが甲状腺に取り込みにくいこと、食物への汚染のチェック体制が厳しく行われているからです。

放射性ヨード131の半減期は8日間ですので3月の原発事故の最初の飛散から半年が経過し飛散した放射性ヨードは、ほぼゼロになっていきます。こんな心配はもう御免です。再飛散がないようにただ祈るばかりです。

文 ふじおか内科小児科

藤岡 隆庸先生
たかひら

甲状腺



※甲状腺は、喉仏の下の辺りにある器官です。蝶が羽を広げたような形で気管の前にあります。